

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900116		
法人名	特定非営利活動法人ごみ		
事業所名	グループホームぼらん千厩		
所在地	岩手県一関市千厩町千厩字前田229		
自己評価作成日	平成 27年 11月 10日	評価結果市町村受理日	平成28年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390900116-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390900116-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27年 11月 25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して5年を迎えます。「入居者が主人公」という考えは変わらず、毎日安心して過ごして頂けるよう、プライバシーと尊厳を守りながら質の高いサービス提供に努めています。地域との関わり合いも重視し、ボランティアとの交流も大切にしながら、常に開かれた施設であるよう努めています。代表者は職員に合った研修会への参加を促し、各々の目標に向けてキャリア形成、スキルアップの啓発を継続的に行っている。また、育児中の女性職員には、時間短縮や勤務内容に制限がある職員に対し様々な条件を受け入れるための職場環境の整備、と職員の意欲向上に対する支援に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では自治会行事への積極的な参加、地区内のボランティアの受け入れ、また避難訓練に近隣住民が進んで参加を申し出てくれたり、サービス利用終了後も事業所に訪れてくれるなど、地域住民との交流を大切にしたい取り組みにより協力体制が築かれている。職員は、利用者の尊厳、プライバシーを守れる思いやりある介護と利用者の笑顔あふれる普通の生活を目指し、利用者の言葉をそのまま記録に残しながらそこに込められた思いに向き合い、実現していこうとする熱意を持ち利用者のニーズに寄り添ったその人の望む暮らしの支援に取り組んでいる。医療連携体制が整備され、代表者、職員、家族との信頼関係も構築されており、充実したチームケアの推進と一層質の高いサービス提供が期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ぼらん千蔵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の理念を事務室内やネームプレートの裏面に明示して、常に職員間で共有し、意識しながら実践に努めている。ミーティングのときには、職員全員で唱和している。	事業所理念をネームプレートの裏面に掲示し、日々のサービス提供場面における振り返りや拠り所として確認できるようにし実践につなげている。事務室内にも大きく掲示し、月1回のミーティングにおいて唱和し意識づけを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶をはじめ、地域の一斉清掃に参加して交流を深めている。地域のボランティアの方が定期的に踊りの慰問にいらして頂いている。	地域の踊りボランティアの受け入れや、祭りなど地域行事への参加を積極的に行い交流を深めている。また、年3回の地区内の一斉清掃の参加や道路に面した敷地の一角をゴミ集積場所として提供するなど地域とのつながりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト養成研修を受講した職員がおり、認知症の人の理解や支援の方法を地域や近隣の方々に伝えられる状態にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催している。ホームでの日常生活の様子や行事への取り組みなどを報告・紹介している。	2か月に1回開催し利用者の状況、事業所の活動状況などについて報告し意見をもらっている。委員からは経営面における課題について率直な質問、意見が出されたり、地域行事の情報が提供され地域との交流促進につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、電話連絡するだけでなく、必要時には足を運び、連携を図れるよう努めている。	支所の担当者と生活保護の関係や夜間緊急連絡カードの情報などを得たり、事業所の実情を伝えアドバイスいただいたりしている。顔が見える間柄を目指して電話だけでなく出来るだけ担当窓口へ顔を出して相談するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0の手引きを職員が閲覧できるようにしている。転倒の危険性が高い方については、ご家族様と相談し、了承を得た上で一部ベツ柵を使用させていただいているが監視的対応にならないよう気をつけている。	「身体拘束ゼロへの手引き」を事務室に常時置きいつでも閲覧できるようにして共有認識を図っている。拘束につながる「待ってください」の言葉も使わないようにし、職員は手をとめてすぐ対応するように徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく、心の虐待にならないよう職員一人ひとりが考えながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	姉妹ホームで利用されている成年後見制度や「まもりーぶ」についての情報を収集し、利用者様が必要になった際は支援できるよう備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事前に契約書と重要事項説明書をお渡しした上で改めて説明している。不明な点がある場合はその場で説明し、ご理解頂き不安なく利用できるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の日常の会話などから思いや要望に耳を傾け、可能な限り実践できるよう努力している。ご家族様には面会時に声を掛け、やはり要望、思いなどを話やすい雰囲気作りで努めている。	入居時に利用者、家族のいろいろな思いを丁寧に聞き把握するようにしている。日常的に何でも言える雰囲気が作られ、出された要望等は取り入れるようにしている。遠方の親族から「メールかファックスでの連絡」の要望があり、対応に結び付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングには代表者も出席して意見交換の場になっている。日常的にも職員の意見や提案には耳を傾け、より良いサービスを提供できるよう取り組んでいる。	代表者、管理者は毎月のミーティングに出席し、職員の意見や提案を聞き、出された意見等を受けて検討し改善や解決につなげている。また、代表者は頻繁に事業所に立ち寄り、職員に声をかけ話を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の女性職員の時間短縮や様々な条件の受け入れ、働きやすい職場環境や職員の個々の意欲向上に対し支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員個々の適性に合わせ、外部研修への積極的な参加を促している。職員がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用も全額補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会の定例会や市が主催する研修会へ参加し、他施設との交流を積極的に交わすことでサービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から要望や不安を把握し、ホームの案内など丁寧に対応することで、利用時に安心してサービスを受けることができるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時からご家族様がどのようなケアを望んでいるのか、不安なことはないか、十分時間をかけ説明・対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議後では代表者、管理者、入居窓口担当者が時間をかけて話し合い、必要なサービスの見極めを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し利用者様と共に心の触れ合える関係を築いている。利用者様が役割を持って生活できるよう、有する能力に応じて声掛けし、一緒に生活していることを大切にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診報告の際には、日常の様子も含め報告している。また、遠方で来訪できないご家族様にもベストショットの中で近況報告をすることで繋がりを保てるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から本人が大切にしてきた旧知の方との交流を促し、関係性が途切れないように、再来の声掛けを行っている。行きつけの美容室、馴染みの場所へのドライブや希望時の電話支援等で関係を維持している。	行きつけの理容所での交流や商店での買い物、お墓参りなど馴染みの人との交流や大切にしてきた場所にいつでも行けるよう一人ひとりの思いに沿ってこれまでの関係がとぎれないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は利用者様の性格や相性などを考慮している。全員で参加する行事やレク活動を行い、孤立せず交流できるような場を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム外でお会いした際、声をお掛けしてお互いの近況報告を行い情報交換している。また、野菜、花などを頂き交流を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情、行動から思いを汲み取り利用者様が語ったことは記録に残し、職員間で共有を図っている。	利用者との会話や日常の表情や仕草などから暮らし方の希望、意向を把握している。特に本人が話した言葉は生活記録にそのまま残し、職員間で振り返って共有し検討している。	利用者の言葉や表情を記録し一人ひとりの思いや暮らし方の希望を丁寧に探すことは利用者理解につながっており、その取り組みの継続と、利用者の全体像を把握しながら持っている力を引き出し、暮らしに活かす場面づくりに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や趣味、嗜好などの情報をご家族様に記入して頂き、職員が閲覧し把握できるようにまとめている。入居後に新たな気づきや発見は記録に残して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や排泄チェック表は24時間の流れに沿って記入し、1日の様子を把握できるようになっている。職員間で記録を共有した上で申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りで利用者様のケアについて話し合いをしている。必要に応じて主治医、利用者様、ご家族様、確認し調整を行っている。それに即したケアプランを作成している。	本人、家族の意向や医療面を総合して暮らしを支える介護計画を作成している。小ミーティングや全体ミーティングで状況を確認し、居室担当からの意見も聞き、常に変化を捉え計画変更や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に生活記録や排泄チェック表、業務日誌に記入し、職員間で情報共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の言葉やその時々を思いを考えながらニーズを把握するよう努めている。通院付き添いが困難なご家族様に対しては職員が代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的にボランティアを受け入れており、地域の方々と交流ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望するかかりつけ医に受診している。複数の病院を受診されている方はスムーズな受診ができるように心掛け、各医療機関と連携しながら情報の共有に努めている。	入居時に確認を行い、本人、家族の希望するかかりつけ医としている。受診時には身体的状況と生活記録を記載した総合チェック表により普段の様子や変化を医療機関に伝えているほか、必要の都度電話で情報のやり取りをして連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の些細な状態の変化でも記録に残し、訪問看護師が来訪した際には、身体の様子や経過観察を報告して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には、可能な限りお見舞いに出向いてご家族様や主治医、担当看護師との情報交換や相談を行っている。また、職員間でも情報を共有し、退院に向けての留意事項及び状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りの指針を説明し、ご本人やご家族様の意向をできるだけ早い時期に確認するよう努めている。入居後も状態に応じ、ご家族様や職員と話し合う機会を作っている。また、状況の変化に応じ、かかりつけ医、訪問看護師との連携も図っている。	看取りに関する指針を作成しており、事業所で対応可能な支援を説明し理解を得ている。医療機関、家族、事業所の連携を図り、2名の看取り対応の経験を有している。状態に応じて丁寧に時間をかけて家族、職員、医療関係者が話し合いを重ね支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習への研修に参加している。緊急時の初期対応を全体ミーティングで確認、共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと、年2回避難訓練を行っている他、外部防災訓練にも参加している。災害時に備えて非常食や緊急時の持ち出し用品の確認も定期的に行っている。	年2回消防署立会いの下で避難訓練を行っており、近隣住民数名の参加を得ている。そのうち1回は夜間想定で行っているほか消防署主催の土砂災害訓練にも参加している。また災害時に備えた飲料水、非常食、電灯、介護用品などを所定の場所に準備し速やかに持ち出せるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、声のトーンや場所に合わせた声掛けや言葉を選ぶように配慮している。また、名前をイニシャルで話すなどプライバシーを保つよう心掛けている。	利用者の誇りを傷つけないような言葉かけや対応に配慮している。特にトイレ誘導の際は声のトーンに気を付け自己決定しやすい言葉かけをするようにしている。ミーティングでは利用者の名前をイニシャルで話しており、入室の際はノック、声かけをしてから行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いを表現しやすい雰囲気作りに心掛けている。一方的な押し付けにならないよう答えやすい声掛けを意識しながら自己決定できる働き掛けを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望があれば、その日の小ミーティングで話し合い、取り入れられるよう調整し、業務の組み立てを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪については、希望や伸び加減を見て馴染みの理・美容室への外出支援を行っている。整容品や衣類などの希望があれば、一緒に買い物をしたり代理で購入対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のお誕生日には希望のメニューを取り入れたりしている。また、外食の機会も設けている。テーブル拭き、食事の後片付けなどをお手伝い頂いている。	献立を掲示し食事への関心を高めるようにし、職員と利用者が同じテーブルを囲んで一緒に食事をしている。プランターで育てた野菜を食材にしたり食器やランチョンマットを変えて皆で楽しんでいる。好みや希望を聞きながら外食なども取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で、栄養バランスを管理しており、1日の食事、水分量は総合グラフに記載し把握している。嚥むことが困難な利用者様にはきざみ食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の清潔に努めている。ご本人の状態に合わせ声掛けや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、排泄の間隔を見ながら職員が声掛けをしている。昼夜の尿量に応じ、パットを替えて使用している。	生活リズム、生活習慣や排泄チェック表による排泄パターンを把握し声掛けを行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツや紙パットの使用も本人の状態に合わせて使用しており、トイレに近い居室の配置にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、運動量の把握に努め、便秘傾向にある方は主治医に相談している。排泄チェック表で便周期を確認し漢方や下剤で対応している。毎朝、牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分を見ながら、本人の希望に沿った入浴ができるよう支援している。拒否が強い時には、無理強いせず、時間や日を変えたりしている。	利用者のその日の体調を確認しながら入浴支援を行っており、男性職員、女性職員の入浴支援の希望についても確認して対応している。入浴を嫌がる方には時間をおいて声掛けするなど焦らず本人の意思やペースを大切に気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムを把握しつつ、その日のペースに合わせて休んで頂いている。居室の温度、湿度も個々に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に医師や薬剤師から受けた服薬の注意点については、個別の受診記録に必ず記載し確認している。申し送りでも口頭で伝え、全員が周知できるようにしている。また、内服の際には、職員が2人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力や状態に応じ、軽作業などを行って頂いている。ドライブや季節ごとのイベントを定期的に企画し楽しめるよう提案している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望に可能な限り沿えるよう外出、外食など支援を行っている。季節の行事では、大型ワゴン車で普段行けないような場所に利用者様全員でお花見に出掛けしている。	利用者が楽しみにしていることに合わせて外出の機会を設けており、車いすの方を含めて全員で出かけられるよう工夫している。室根山や館山公園、外食、買い物などに出かけているほか、リンゴの木数本のオーナーになってリンゴ狩りに出かけ、パイやコンポートにして味わっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っているが、外出の際には自由に使えるようにしている。職員は定期的に出納帳を記入し、利用者様の所持金を把握するとともに、紛失防止に努めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて離れて暮らすご家族様と電話ができるように支援している。また、手紙、ハガキの支援・投函も行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品を廊下に展示したり、日常の写真を月ごとに貼り替えている。居心地よく過ごせるよう共有スペースの室温・湿度にも気を配り、心地よく過ごせるよう配慮している。	利用者のアイデアが活かされた切り絵や貼り絵などの作品が廊下に掲示され、利用者の感性が反映された居心地の良い空間となっている。フローアは広く天窓から自然光が差し込み、利用者の日中活動やくつろぎの場としてゆったりとした雰囲気でも快適に過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内や廊下にソファを設置し、利用者様が自由に過ごせる空間を作っている。利用者様同士の相性などを配慮した食席はご自身の居場所として定着している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にこれまで使い慣れた家具や布団等を持ち込んで頂き、居心地の良い環境で過ごして頂けるように努めている。好きなCDを聞いたり植物に水をあげたりして楽しめるよう配慮している。	本人、家族と相談しながら本人が落ち着いて過ごせるよう、布団やCDプレーヤー、時計、写真など使い慣れた物や思い出の物が持ち込まれ居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは認識しやすいように表示している。また、浴室内には滑り止めマットや手すりを取り付け、安全に配慮している。			